



諸江住宅団地 金沢市諸江町 ●竣工年度／S.53～54

■住宅団地

日本のように高度に開発された国が、稠密な人口をかかえてどのような密住社会を築きあげていくかは、多少オーバーな表現を許してもらえば地球史的にも興味深い実験舞台となっている。今の我国が最も必要とするものの一つは集住の知恵だが、少なくとも1970年代までの我々は集住の知恵にみがきかけ、世界のお手本となるような社会のシステムを身に備えるに至ったとは言い難い。

諸江とこれに続く一連の県営住宅団地での試みは、公営住宅の質の向上を図ることが直接の目的ではあるが、これを通じて集合住宅を舞台とした都市集住の知恵の蓄積と充実にささやかではあるが一役買うことを期したものである。

思えば、さまざまな立場で実に多くの人々に諸江の計画づくりについて参画していただいた。そして、度重なる討議を通じて生まれた発想は、設計者の手を通じて注意深くかつついに形に置きかえられて行った。結果は、細部ではいろいろと難点もあろうが、大筋では計画のねらいは成果を挙げているように思う。小規模な団地ではあるが、計画にかかわった人々によって加えられた情熱とエネルギーの密度の高さは相応の結果をもたらしたものと考えている。

若山和生 (元建築住宅課長)



